

講義名	コーチング論					授業形態	
担当教員	内田 達介	開講期・曜日・時限		後期 火曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング	

主題と概要

本講義では、アスリートのコーチングに関わるトピックについて幅広く学ぶ。具体的には、スポーツ指導者に求められるコーチングの理念や哲学といったトピックから、実際のスポーツ指導場面において重要なトレーニングの組み立て方、行動変容を促す指導方法など実践的なトピックまで幅広く解説する。講義の後半では、特定のスポーツ指導者を各自で選択してもらい、当該指導者がいかなる点で優れているのかについて考察、他の学生に対して説明することを求める。

到達目標

実際に活躍しているスポーツ指導者について、何が優れているのかコーチングに関する諸理論から他者に説明できるようになる。コーチングに関連する知識を自らの実践活動に活かすことができるようになる。

提出課題

- ・講義終了後に提示する課題と感想・質問の提出
- ・プレゼンテーションに関連する資料の提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・毎週、講義内容に関する感想・質問を提出してもらう。提出された感想・質問のうち、特に全体で共有した方が望ましい内容については、復習を兼ねて翌週の冒頭5分程度を使って紹介・解説をする。
- ・第13週目と第14週目に実施するプレゼンテーションについては、発表終了後に担当教員から即座にフィードバックをする。また、学生間でプレゼンテーションの出来について相互評価を実施する。学生間の相互評価については担当教員が集約したうえで、第15週目に各学生にフィードバックする。

評価の基準

- ・第1週目～第10週目に提示する課題（30%）
- ・第11週目の理解度確認テスト（35%）
- ・第13週目・第14週目のプレゼンテーション（35%）

履修にあたっての注意・助言他

- ・原則として毎週、課題と感想：宿題の提出を受ける。両方の提出をもって出席とする。
・講義中に授業の進行に支障を及ぼす行為(暴力、暴言、セクシュアル・ハラスメントなど)に関わる事例を取り上げることがある。このような事例を知りたくない学生については事前に相談すること。
- 第13週目と第14週目のプレゼンテーションについては、原則1名ずつの発表を予定しているが、受講者数によっては、2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。
- 第13週目と第14週目に各自1つのテーマを抽出しオンライン上にアップロードすることを求める。そのため、マイリポートのコンテンツも付いていることが望ましい)を使用できる環境がありかつ、かつ、Officeソフト(特にPowerPoint)をある程度使いこなせるスキルをこのことを求める。ただし、このような作業環境が整いやすい場合であっても、受講生同士で協力して解決できるのであれば受講可能である。
- ・プレゼンテーションに係る作業を自己完結できる受講生については自主的積極に参加することを求める。
- ・基礎能力(パソコンの基礎)と情報処理人間などの講義を通して、ある程度P法の基本的な操作(ファイルの保存方法など)やOfficeソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

教科書

グッドコーチなるためのココロエ.	平野裕一・土屋裕隆・荒井弘和	培風館	2400	9784563052522

参考図書

運動学習とパフォーマンス 理論から実践へ.	シュミット, R.A. 調枝孝治(監訳)	大修館書店	5280	9784468262803

その他

授業計画

- 1 授業ガイダンス、レトリックダクション、コーチングの理念、哲学
- 2 コーチング(1)、トレーニングの原則・原則、トレーニングの思考・行動サイクル
- 3 コーチング(2)、コーチングの歴史、コーチングの発展、コーチングの未来
- 4 コーチング(3)、効果的なコーチングのための言語技術の重要性
- 5 コーチング(4)、効果的なフィードバック方法
- 6 コーチング(5)、コーチングの環境
- 7 アスリートの特徴(1)、アスリート、トレーニング
- 8 コーチングにおける倫理(1)、倫理的なコーチングについて考える
- 9 コーチングにおける倫理(2)、倫理的問題の解決、倫理的問題の解決
- 10 スポーツ指導者のセルフコントロール、選手とのコミュニケーション
- 11 選手とのまともな関係、選手との関係
- 12 選手とのまともな関係、選手との関係
- 13 プレーセーション(1)、プレーセーション
- 14 プレーセーション(2)、プレーセーション
- 15 総括、優れたスポーツ指導者の特徴について考える

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
○ オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A1型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ⑤ 講義終了後、次週の予告と講義内容に関するキーワードを提示するので、各自そのキーワードを参考に教科書や関連図書などを通して予習しておくことが求められる（2時間程度）。
- ⑥ 講義終了後、講義中に学習した内容について再度確認して整理しておくことが求められる。さらに、当日紹介したトピックと関連する実際の事例について新聞記事データベースなどを使って探し出し、コーチングによる理解を深められる（1時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

コーチングに関わる諸理論を理解するだけでなく、実際に学習者（子供、部下、選手など）を効果的に指導する方法を理解しておくことは、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業する際に有用な知識となる。また、コーチングに関する知識を体系的に学ぶことで、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力を獲得できる。そのほか、授業後半に実施するプレゼンテーションの経験を通じて、プレゼンテーション能力の一端を身に付けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・ Google フォームを使って課題の提示や理解度確認テストを行う。
- ・ クリッカー (respon) を使って講義中に紹介した内容について学生一人ひとりから質問や感想を求めることがある。

実務経験の有無及び活用

なし

備考

- ・授業の内容や道徳方は社会情勢や受講生の理解度に応じて変更する場合がある。
 ・一時的に通学困難になった場合は、対面授業の中での対応となる。オンライン授業への移行措置はない。
 ・講義期間中に受講に関わるトラブルが発生した場合は担当教員までメールにて連絡すること。その際、学号番号・氏名・受講している講義名・トラブルの詳細を必ず本文中に記載して連絡すること。